

# 初の「本格的な少数政党並存政治」と政権の将来

ノンフィクション作家・評論家 塩田 潮



\*衆参での少数政党並存は初の事態

\*石破政権が就任直後に解散・総選挙に踏み切った理由

\*首相の出處進退と石破さんの腹の内

\*9月は首相交代のシーズン

\*立憲民主党・野田代表の3つの弱点

\*国民党が掲げるイエレン流マクロ経済政策

\*次の自民党総裁、連立政権の枠組みは

\*包括政党の時代から、政党横並びの時代へ

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

前回、7月11日の講演会で毎日新聞の佐藤千矢子先生に政治の話を聞いていただきましたが、その時は参院選挙前の段階でした。その後、大きな変動が起きたことを前提に、塩田先生にお願いした次第です。

本日、関税について話がまとまり、アメリカのラトニック長官と日本の赤澤大臣による署名式が行われました。このことがどう影響していくのか。参院選後、少数の党が乱立する形となり、日本の政治のあり方としても大きな節目かもしれません。その点も含めまして、お話を伺えたらと思っております。

実は先生は最近、東洋経済から『戦後80年の取材証言』という本を出されました。これは塩

田さんが記者として歴史的な瞬間や、大事な場面を取材されてきたものを集大成としてまとめたものであります。ご興味がありましたら、手に取って見ていただければと思います。それは先生、皆さんお待ちですのでどうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

塩田 ご紹介いただきましたように、私は7月に『戦後80年の取材証言』という本を出しました。1977年、月刊『文藝春秋』の記者になつたときから取材を始めまして、48年取材を重ねてきました。そこで知り得た戦後80年の80の出来事を6ページから9ページ、オムニバスで載せてあります。第1項は1941年、昭和16年の日米開戦の東条英機内閣、この閣議決定に参加した大臣2人を私はインタビューしてい